

令和元年度第2回学校教育審議会 記録

令和元年11月27日15:00～

市役所東庁舎 第2会議室

〔出席委員〕西坂千代子、吉田知子、岡野壮人、松田恵、瀬尾津喜恵、藤山正明、池原和彦、
名越和範、森下哲哉、山下千之、佐々木敬宗（敬称略）

1 開会	
会長 教育長	開会の宣言 開会挨拶
事務局	資料確認・会の時間の予定確認
2 報告	
事務局	協議事項（1）について資料に沿って説明
3 協議	
会長	まず、（1）の「重点施策に係る現状と課題」について、皆さんから質問やご意見をいただきたい。
教育長	<p>全国学力・学習状況調査について付け加えさせていただきたい。この全国学力・学習状況調査、小学校は2教科、中学校も2教科、英語が3年に一度である。この調査は、文部科学省がいつている子ども達につけたい力、これが本当についているかどうかを測るためのテストと捉えている。そのため、全国学力・学習状況調査は非常にいい問題と考えている。全国や県との比較もできるので、データとしてお示しした。</p> <p>では、今、子ども達にどんな力をつけるのかという話であるが、文部科学省の説明では、「解のない課題、答えのない課題に、現状で今この方法が一番いいだろうというような何らかの改善策を生み出す力」といつている。また、それを「一人ではなくて、そのときに一緒にいる仲間と協働」していつていることである。文部科学省が説明しているような力をつけようとする、と、教員がずっと説明をするような以前のような講義式の授業では、そういつた力はつかない。</p> <p>今、本市の小学校、中学校では、どのように子ども達に主体性を持たせ、対話をどのようにして授業の中につくるか、深い学びにつなげるにはどのようにしたらいいのかというようにことを考えながら、授業づくりをしていつている。</p> <p>今日も小学校・中学校の校長会があり話をしたが、授業が変わりつつある。子ども達が「えっ、なんで？」というように疑問を持ち、解決のために話し合うとか、意見交換できる場面がかなりつくられるようになっていつている印象を受けている。</p>
会長	<p>授業の面で様々な工夫がなされているということであった。</p> <p>資料のP2～4の評価のところABCがある。評価Cのところ棒グラフを見ているだけでは、なるほど評価Cだという感じが分からないので、どういう基準で評価がCになっているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>基準については資料の上に書いてあるので見ていただけたらと思う。具体的には「読むこと」といつているところが特に弱くて評価Cとなっている。あるいはP3の数学のところの「関数」も全国と比べて差が-3%となっている。課題としていつていることで具体的な記述をその下の枠に記載している。</p>
会長	<p>同等というのはどれくらいを同等いつているのか。全く一緒の場合か。あるいは、0.2%や0.3%ぐらいだったら同等と見るのか。</p>
事務局	<p>今の表し方では、多少でも下った場合は、評価をCと表記している。今、お示ししている項目についても、ほとんど差がないものも評価をCといつている。現状では大きくそこが課題として上がつているというよりも、少しでも下つていることで評価Cといつている。分析としては、本年度については、大きく課題となる項目だとは捉えていつている。この表記の仕方でも考えていつけないと考える。</p>
会長	<p>評価Cのところは、説明によると大きな問題・課題点とまではいつえないところもあるということである。</p>

委員	<p>数値化したら評価がこうなったという説明であった。気になることは、地域学校委員会などでも話させていただくのだが、低位にある子がどれくらいいて、成績の山がいい方にずれていっているのかどうか。或いは、低位の子は差がなかなか埋まらないということなのか等の実態である。</p>
教育長	<p>言われるとおりである。学校は、なかなか正答率が上がらない子をどのように伸ばしていくかという努力をすると同時に、上位の子をさらに伸ばしていくためにどうするかということ日々苦勞しながらやっている。そこを継続して取り組むということが大切だと思う。</p>
委員	<p>先ほど言われたような課題として、得点が高い子もいるが、それと同じくらい得点が低い子がいるという状況が小学校現場にある。</p> <p>本小学校の場合は、担任一人ではほとんどの授業を行っている。そのため、一つの授業で教室にいる全児童に全部わからせようというのは、正直、至難の技であるが、日々子ども達を前にして向き合っていて取り組んでいる。また、教科によっては、保護者の了解を得て別の教室で個別に勉強を教えている。</p> <p>算数の場合は、45分の授業で分かり、そして家庭学習で一生懸命やって、できるという思いでいたが、最近はちょっと違うと思っている。授業の中で理解してできる。ここまで授業でやっておかないといけない。授業の中でわからなくても、やってみたらできたと。また、授業をやりきった後で、宿題をさせる。今年は、少しサイクルをずらしながら授業の流れをつくるように取り組んでいる。</p>
委員	<p>市としては、国語で「読むこと」が低い。本中学校でも「読むこと」が低いという結果が出ている。</p> <p>かなりの文量があり、それを読む体力、読む根気強さがないとなかなか対応できないということがある。そこを養っていく必要がある。読書活動に力を入れているが、なかなか結果が出ない。少しやり方を変えて視写を取り入れ、書き写すことに力を入れている。書き写すためには、読まざるを得ない。視写をすることで低位の子に少しでも力が付けばと思っている。</p> <p>やはり子ども達を見ていく上で、伸びたことをきちんと見取る必要がある。平均と比べて結果が悪いと言ってしまったらやる気がなくなる。だから、1年生のときより、頑張って成績が上がってきていることを評価してやらないと伸びていかない。よく見ていかないと見方を誤る。</p>
会長	<p>各学校では、学校独自のデータを詳細に分析するよう努力をしているということである。私たちが、今見ているものは、市の全体の数字だけである。そういうことを踏まえて話を聞きたい。</p>
委員	<p>先ほど教育長が言われたように、授業のあり方が変わってきているという流れを感じる。先生方は、分からない子と分かる子の差がある中で、授業の中で分からないことがあれば、先生だけでなく周りの友達に聞くような授業づくり、関係づくりをされているように感じる。</p> <p>学級通信を見てぐらいしか知ることにはできないが、「〇〇君が聞いたら教えてくれた。授業中、班の雰囲気はすごくよくて、みんなで頑張っていて終わることができました。」というようなことが書いてある。以前は、授業中はおしゃべりをしたらいけない。前に向かって先生の説明を聞く。分からないことがあったら、あとで聞きなさいという感じだったと思う。授業のあり方が少しずつ変わってきて、分からなかったら分かりませんとと言えるような雰囲気づくりに、先生方が頑張ってきた結果ではないかと思う。</p> <p>中学校の数学については、私たちが習っていたときより、すごく内容が増えていると感じる。私たちの頃は、関数など難しい内容についてはもう少し時間も多めにとって、勉強していたように思う。しかし、我が子の勉強の様子を見ると、関数を扱う時間が短くてつまづいている。私の時代のときは、つまづく生徒が多い内容については、一番時間をかけて教えてもらった気がする。学習する内</p>

	<p>容の量が増えた結果が、我が子にも出てしまっているのかと思う。</p> <p>「読むこと」についても、我が子は本を読むのが好きなので、文章を読むことが嫌いではないのだが、内容量がすごく多い。国語のテストで、「この物語を読んで『書き出しなさい。』」ならある程度の目星をつけることができる。しかし「これについて作者がどういう思いだったか書きなさい。」だと、しっかり読まなくてはならないから時間が足りない。もしかしたらそういう影響も出ているのではないかと思う。</p>
教育長	<p>友達にわからないことを聞けるということはとても大事なことで、授業中に「これ分からないから教えて。」と言える友達同士の関係をつくることは、とても大事なことだと思っている。先ほど説明させてもらったことになるが、学校は対話に関わる部分を45分、50分の授業の中のどこかに位置づけて、授業の流れを構成しようと努力している。それが少しずつ成果になっているのでは、と思っている。</p> <p>中学校では、受験に向けて、6時間目が終わってから放課後学習を行っている。また、夏休み中に補習的な学習も行い積み上げてきている。授業以外の時間も使って補っているなど様々な工夫はしている。</p>
委員	<p>分かる子は分からない子に教えることで、より力がつき、定着するというのをよく子ども達に話をする。たぶん教えてもらった方は、できるようになっただけでうれしいし、友達同士の関係もよりよくなる。そういうことで生活の中では関係性が築かれていく。今、未来塾で見ている子ども達に対して、「とにかく問題を読みなさい、音読をきなさい。」と言っている。私も文章を多くつくるが、自分で声に出して読んでみて間違いに気づく。子ども達にも、「たくさん音読をすると頭の中にしっかり入っていく。目で追っていくよりも一段と入っていく。恥ずかしいかもしれないが、できる限り人のいるところで、家の中では自分の部屋で声を出して全部問題を読みなさい。」と言っている。</p> <p>あと、ノートのとり方であるが、習ったことが定着できるようなノートを自分なりにつくるといふ努力を、中学生からはどんどんやってほしいと思う。</p> <p>教え合うとか議論し合うということについてであるが、例えば証明の問題で議論し合えると、よりおもしろく学習ができると思う。子ども達には学ぶ方法も教える必要があると見ている。</p> <p>じっくり見ていかないといけないのは、学習できる環境があるのかということである。家庭にそういう環境がない子もいるので、どのように学習できる環境を確保していくのか。そういうことも学校のチームの中でじっくりと話し、協力し合って、子どもの学ぶ権利をどう保障してやるのかということを考えながら、子どもの指導にあたっていたきたいと願っている。</p>
会長	<p>私は市内の中学校出身であるが、当時、自主学習が盛んに言われていた中学校であった。私に合っていたのか、一番勉強したのは中学校だったと感じる。昔から、効率よく覚えたり、訓練したりする方が結果的には早いというムードがあったので、高校に入ったらまどろっこしいという感じがあった。</p> <p>最近が変わって、生徒同士が話し合いをする、教え合いをする、そういうことを大事にしようという雰囲気になってきているということである。教員の方の理解というか、「よし、そういうふうやっていこう。」という感じは、スムーズになっているのか。</p>
教育長	<p>事務局の見方としては、だいぶ進んできていると捉えている。それを指導する現場の管理職は、相当な苦勞をしている。これまでと異なった授業方法について、様々な工夫をしながら対話の場面を取り入れている先生がいる一方で、なかなか自分の授業のスタイルを変えていけない先生もいる。管理職には、学校の考え方や授業の進め方を教員に理解してもらい、授業の改善を行うために頑張ってもらっている。</p>
委員	<p>私も会長と同じ学校の卒業生で、自主協同学習とっていた。今、岡山大学の高旗先生をお呼びして、令和版の自主協同学習ということで取り組んでいる。自</p>

	<p>主協同学習と、現在、求められている学びは非常に共通しているところがある。令和版の自主協同学習に取り組んで3年目になる。</p>
委員	<p>学業について様々な工夫をしていただいて、毎年、子ども達に力をつける努力をしていただいている。気になったのは、不登校の要因・背景の中に「教職員との関係ということで信頼関係ができていない。」というのがあること。何か具体的な事例を教えてください。</p> <p>それと4名のソーシャルワーカーの方がいろいろサポートされていると思うが、関わっていただいたことで学校に復帰することができたとか、あるいはなかなかそこに至らないというようなケースであるとか、教えてください。</p>
教育長	<p>主に、退職校長にスクールソーシャルワーカーになっていただいている。保護者の気持ちが少しでも安定することで、子どもも少しずつ安定していくケースがあると実感している。結果として学校に復帰できたという数は、多くはない。しかし、スクールソーシャルワーカーに直接、家庭に入っていただき一定の効果はあると思う。</p> <p>教員との人間関係の件であるが、現在、小学校の高学年に完全な形ではないが教科担任制のような仕組みが取り入れられないか試みている。今年度、西郷小学校と社小学校で少しずつ工夫をしながら、取組を行っている。ご質問にあったように、担任との関係がうまくいかなかったときには、子どもが悲劇であるし、教員も悲劇である。今年度、市内の学校では、そこまでの状況にはなっていないと思っている。</p> <p>担任が朝からずっと授業を行うのではなくて、教科によって別の先生が来るというふうに、なるべく複数の先生が関わる仕組みを小学校の高学年に入れた方が、今の子ども達の実態に合うのではないかと考えている。それがもう少し軌道に乗れば、心配していただいているようなケースは若干でも減るのではないかと考えている。</p>
事務局	<p>成功例というのは年間でも数件しかない。家庭に入り込むまでにはかなり時間を要するが、その中でソーシャルワーカーと保護者との信頼関係が少しずつ出来上がり、保護者が子どもを押し出すことに協力してくださったり、子どもを学校に連れて来てくださったりというのが数件ある。また、家庭との関係づくりの中で子どもはソーシャルワーカーの顔を知っているので、教室で一緒に過ごしたりということもある。即効性というのはなかなかなくて時間を要する。</p>
教育長	<p>不登校のカウントのことであるが、年間30日以上欠席すると不登校ということになる。中学校3年になると受験のことがあるので、この時期は学校復帰する生徒も多い。しかし、学校復帰しても、それまでの30日以上欠席という数は消えない。そういう現状もあるので、出現率も高いが、復帰している率もそれなりにある。</p>
委員	<p>時間を要すること、継続して見守っていかないといけないこともよく分かる。そういう実態も全く見ないわけではない。関係をつくるというところで、どんな状況でそういう状況になっていくのかということであるが、保育園ではなかなかデータ化できないところがある。ソフト面のコミュニケーションみたいな話になってきたときに、どうしていけばいいのかと思う。</p>
教育長	<p>例えば、複数体制で家庭訪問をする。学年主任が担任とて行くとか、場合によってはスクールソーシャルワーカーと担任が行くとか、複数で関わることで安心してもらう。心配されているように、初めから心を閉ざされてしまうようなケースもないわけではない。心を閉ざされている場合は、保護者の気持ちをしっかり受けとめ関係性をつくっていかないと、何も始まらないといったケースもある。</p>
委員	<p>保育園でも発達障がいの問題とか、配慮を要する子どもが増えている傾向がある。保護者との関係がよくなないと、子どもの心に響かない。なかなかデータ化しにくい難しいところだと思う。</p>

	<p>印象に残っている先生というのは、授業が上手かどうかということよりも何か惹き付けられるものがあつたのだろうと思う。勉強は楽しくないけど、先生と話をするのが楽しいということもある。自分の子どもを見ていても、すごく怒られて帰ってくることがあるが、本人は納得している。子ども達も先生のが好きで、いい関係ができています。そう考えると、「信頼関係」というところが気になる。</p>
事務局	<p>教員の不適切な言動で関係を崩したということではなくて、タイプの相性が合わなくて、何となく距離感ができてしまい、だんだん信頼関係が薄まってしまったという例があつたのではないか。だからこそ、小学校の学級担任のように、一人の担任の先生だけの対応ではなく、いろいろな先生が関わることが必要である。時にはスクールソーシャルワーカーのような人が関わることも必要ということである。</p>
委員	<p>「教職員との関係」がずばりそのものということではないが、私の知り合い、友人の3人が不登校になり、長年、中学校の時に苦しんでいた。そのうち2人は、友達が怒られているのを見て学校に行けなくなったというのが直接のきっかけであつた。悪いことをしたから先生が指導をされるのだと思うが、教室内での指導の仕方というか、言葉遣い、態度とかが怖くなってしまった。2人は何もしていない、そこにいただけであつたが、先生の指導が怖くなってしまって学校に行けなくなってしまった。もう1人は、授業の中で先生に「もう来なくていい。」と言われた。厳しい指導だつたとは思いますが、先生も信頼しての一言だつたとは思ふ。しかし、そのことがきっかけで学校に行かなくなってしまった。何年も前の話ではあるが、学校の先生って1対1で指導しているような気持ちかもしれないが、教室に人がいるからには、30人がいたら30人が注目している。そういう一つの言葉が全部に影響してしまう。中には「関係ない。〇〇君が怒られている。」で済んでしまう子どももいるのかもしれない。しかし、一方ではナースバス過ぎるのかもしれないが、自分の友だちのような生徒もいる。先生は指導されている時に、見られているということ意識して指導していただきたい。いつかお願いしたいと思つていた。</p>
教育長	<p>先ほど、言われたような厳しい指導はできなくなつてきている。こちらから見ると、もっと厳しく指導してもいいのではと感じる時もあるが、先ほどの例のような心配もあるのでできない。結果的に、余計に時間を要してしまう場合も出てくることもある。</p>
委員	<p>問題行動のところの表についてであるが、特に中学校の授業妨害、エスケープが0になっている。私は小学校、中学校とも地域学校委員をやっているが、授業妨害、エスケープという部分があるように聞いている。そのあたりのカウントの仕方はどうなのか。もう一つは、いじめのカウントの仕方が文部科学省のカウントの仕方によるのだろうけど、どんどん数が増えている。どう対応していわれているのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>2学期から学級が落ち着かない状況があるとの相談を受けている。その中で情緒の面もかなり影響をしていて、授業の中でおもしろくなかったり自分の意に沿わなかったりしたときに教室を出てしまうことがあるようだ。令和元年度の9月末時点の資料であり、学校からの報告を受けたものである。</p>
事務局	<p>学校が報告してきたものをそのまま記載している。複合的に捉えて「その他」にあげているということも考えられる。</p>
委員	<p>地域学校委員会で2回の授業参観をした。1回目はプイッと出て行った状況を見た。もう1回は机を倒して、友だちを連れて出て行く状況だつた。それがエスケープにあたるのか授業妨害にあたるのか分からないが、なぜ先生は指導しないのかと正直なところ思つた。その子のことを考えるなら、甘やかすというわけではないのだが、少しひどいと思つた。</p>

教育長	<p>打てる手は打っているつもりではいる。強めの指導をすると、たぶん向かってくる。そうなるともっと大変な問題になるので、教員が我慢するということがあるのかもしれない。別の方向から、家庭の了解も得ながら医療関係につなげることを学校と話をしている。</p>
委員	<p>地域学校委員会の方も、対話という部分の中で、朝のあいさつ運動を2学期からは強化している。なるべく生徒との接触を多くしていこうというのが我々の気持ちである。うまい具合に指導していただけたらと思う。</p>
事務局	<p>先ほどの指導ということであるが、情緒がかなり影響しているということがあ る。そこで注意したら逆効果になることが危惧される。それから、周りからの認められ感がない。そういった部分も気をつけてやらないといけない。教職員で共通理解しているのが、注意ばかりでなくて、落ち着いて話を聞いてやったり、いいところを伝えてやったりというやり方を重視している。</p> <p>なお、市教委としても報告を受けて、12月から人的配置をする予定である。その分、いろいろな先生方に入っただきながら見守っていこうと考えている。</p> <p>いじめの件数については、小さな問題もということで、すべて報告するように言っている。からかいも含めて報告してもらっているが、積極的にいじめを認知するように事務局では、校長先生方に話をさせてもらっている。それを受けて学校も早期発見、早期対応していただくようにしている。</p>
教育長	<p>いじめの内容が、冷やかしか、からかいがほとんどである。だから、いじめが起因して学校に来れなくなっているとか、大きな問題が起こったということは現状ではない。ただ、時々気になるのは、物が隠されたとか、そういうことは若干ある。それもいじめということでカウントするので、それぞれの子に対して指導をする。した方もされた方もそのことで傷ついてしまったり、関係が悪くなくてもいけないので、どちらの子に対しても、その後もきちんと学校生活を送れるように指導をしている。</p>
委員	<p>いじめは冷やかしかや茶化しもある。結構、子ども達から聞くのは、先生はされた側の話を聞く、した側の話を聞く。そこで謝ればそれで終わり。そういうパターンが多い。</p> <p>しかし、先ほどの話でもあったように、うちの子も小学校の時に友だちへの給食指導を見ていて給食が食べられなくなった経験がある。傍観者というか周りの子ども達が、当事者たちにとってどういう態度をとっていくのかということが重要になってくる。先ほどのエスケープの話でもそうだが、周りの子が認めてくれれば、その子は帰ってくるかもしれない。中学生くらいになると先生より周りの同学年の子ども達が自分をどう見ているかがすごく気になる。今まで不登校で荒れた子でも、「お前が来んと修学旅行に行けん。みんなで一緒に行こう。」と誘うことにより修学旅行に行けて、それから学校に復帰したという例もある。やはり周りの子ども達の力はすごく大きいと思う。</p> <p>話し合いとは、そういうことも含めて対話力を身につけることが大切だと思う。先生が個別に対応していても、生徒はなかなか学校復帰しようとしな ない。いじめもなかなかなくなるのではないかと思う。たぶん、そのあたりのところで保護者も心配だったり不信感だったり持たれるのではないか。難しいかもしれないけど、周りの子との人間関係を踏まえた対話力を身につけるようにしていかないといけないと思っている。</p>
委員	<p>深夜徘徊とは何時以降のことをいうのか。私の感覚では最低でも20時を過ぎて子ども達だけで飲食店等にうろろろしていたら、深夜徘徊だと思う。しかし、私の感覚、考えで深夜徘徊に計上する生徒数をあげるとすると、深夜徘徊の生徒数が多くなるのではないか。</p> <p>20時頃に中学生だけでご飯を食べているというのを見ることもある。深夜徘徊</p>

	<p>徊がどこからのことなのかと思う。あと、喫煙についてであるが、電子タバコになって気づかれないということはないか。授業の合間に生徒が抜け出して、ポケットから電子タバコを出している姿を同じ学校の子や下校中の小学生とかが見ることがあるようだ。大人は臭いがしないから気づかないし、電子タバコはインターネットとかで買えてしまう。親の名前で登録すれば、そういうサイトで買い物ができる。そういうのを見ている子供がすごくいる。</p>
教育長	<p>学校の中では見つかっていないということだと思う。</p>
委員	<p>ポケットに入っているけど、あまり臭わない。</p>
教育長	<p>子どもは悪いことをするときには、見ていないところである。学校だけで見つけれないところは、地域から情報をもらって指導ができるということもある。そこは学校だけでなく、家庭も含めて、心配な状況があれば何らかの形で情報を入れてもらい子ども達を指導していく仕組みにしていかなければいけない。最近、夜のことで気になるのは、居酒屋のようなところに小さい子を連れて来られることがあり、いいのかと思うことがある。</p>
委員	<p>2020年以降は禁止になる。タバコが吸えるところに子どもを連れて行けない。タバコを吸えない年齢の子、受動喫煙の問題で、そもそも立ち入りが禁止になる。飲食店でお酒を扱うところが禁煙にすると売り上げが下がる。だから喫煙ができる環境のところには、子どもはいっさい入れられないようにするという条例ができるらしい。講演の講師が言っていたので間違いないのではないかなと思う。</p>
委員	<p>中学生でも居酒屋に行く。ある学校の生徒が運動会の打ち上げを居酒屋で始めようとしていた。ちょうどその時、隣の席に先生方がおられて、中学生の子とも達はすごく怒られたという話がある。</p>
委員	<p>今の子ども達は、中学生なのか高校生なのか分からない。</p>
教育長	<p>今、話題となっているような問題も、家庭の中でどう育てられているかということが大きいと思う。中学校に勤務していた時に気になる子がいて、いろいろ情報を聞いたら、小さい頃は毎日、父親に居酒屋に連れて行かれてご飯を食べていたということだった。その生徒の状態は、大変であった。毎日呼び出さないといけなかった。</p>
委員	<p>夜の遅い時間に外に出ているということは、睡眠時間が十分でない。そういう状況で朝、学校に行ったら当然、眠たい。</p>
教育長	<p>中学生みたいな子を見て「早く帰るように。」という「塾です。」と言われることもある。</p>
委員	<p>居酒屋等の横に塾があつたりする。聞いたら塾ということなので、危ないから送り迎えしてもらうようにと言うしかない。会合の帰りで21時、22時とかでも見かけることがある。</p>
教育長	<p>P T A連合会などでも協議題にあげていただくことも検討していただけないか。学校からというよりP T Aから出してもらった方がいいかもしれない。</p>
事務局	<p>喫煙の件であるが、店の方から通報があつて本人に聞くが、学校は吸っている現場を見ていなかったり、本人が認めなかったりして、数字としてあげられないことがある。タバコを買ったということは認めたが、喫煙をしたということは認めないということである。</p>
会長	<p>いろいろな面での苦勞は想像できる。問題行動を起こす生徒にどのように接していくかということの難しさと周りの子が先生と当該生徒との関係をどう見ているかということも大きい。周りの子が、「これは先生とうまくいっていない。」「この先生はたいしてやる気がない。」とそう見えた途端に、クラスや学校は崩壊していく。教員は基本的に優しい人間だから、何とかこの子をよくしてやろうと思うのだが、一方で周りの子がどういうふうに見ているか。「なかなか解決してもらえない。」「先生は一生懸命かもしれないけど何も変わらない。」ということになると、だんだん荒れてしまうということがある。難しいとは思いますが何と</p>

	<p>か頑張ってもらいたい。学習と生活の問題は相関関係があるので、どちらからでもよくなればと思う。</p> <p>それでは次の協議事項（２）「倉吉市立小・中学校の適正配置について」に移りたい。</p>
事務局	協議事項（２）について資料に沿って説明
会長	皆さんの方で質問・意見はないか。
委員	複数案というのは、どこの小学校とどこの小学校がということか。
教育長	イメージとしては、〇〇小学校については、こういう選択とこういう選択がある。□□小学校についても、こういう選択とこういう選択があるというふうに、それぞれの地域について出したいと思っている。
委員	<p>複数案を適正配置協議会に出される目安は、いつ頃になりそうか。資料を見る限り、最初の話が出てから１０年くらい経っている。倉吉市のＰＴＡ連合会の方でも、来年１年間は保護者の中で倉吉市小学校適正配置について話をしているのではという案は出ている。決定事項ではないが、来年度の事業計画として先日そういう話があった。地域によって出てくる話もいろいろ違うが、保護者間で話をすることが今までなかった。各学校単位ではあったとは思いますが、全部の学校の保護者がまとまって、このように思っているという話を出す機会がなかなかない。倉吉市のＰＴＡ連合会が年に何回か集まる機会があるので、その中で、倉吉市小学校適正配置について話し合う機会が持てたらと考えている。具体的にこうだという案を示していただければと思う。</p>
教育長	<p>現在のところ、適正配置協議会の委員にいつ頃と言っていない。９月の議会の時には、「あまり遠くない将来」という言い方をした。今回の議会では「近いうちに」と答えると思う。これまでの経緯から、適正配置協議会の委員には、これくらいの目安を考えているということを中心に伝えたいという思いがある。１年かかってようやく適正配置協議会が設立できたのだから。</p>
委員	<p>適正配置に関わることではないのかもしれないが、今、全国的にＰＴＡ不要論が出ている。倉吉市としても直面している面がある。先生と保護者が連携する関係をつくるために、ＰＴＡというのは存在しているのではないかと思うが、負担になるとか忙しいとかの意見がすごく出ている。特に学校によっては、中学校区の行事の負担が大きい。</p> <p>ＰＴＡはいらないだろうということに輪をかけて、活動をしている人たちもマイナスのことを発信される。すごく大事なことをしている、いいことをしていると言うつもりはないが、子ども達を育てる環境という意味でＰＴＡはすごく必要な存在だと思っている。インターネットでＰＴＡのことを調べたら、任意団体、入退会は自由、ＰＴＡの入会、会費のことで裁判をしているところもあると記載されていた。そういう情報だけはすごくあがってくる。負担だと考えるのは個人の感覚ではあるが、ＰＴＡのマイナス的なイメージをなくすためには、ＰＴＡの取組の充実を図るのが一番の解決策だと思っている。</p>
教育長	<p>前回の会でも申し上げたとおり、市内の小学校にある中学校区問題は、小学校適正配置とともに、解決できる方法を何とか考えたい。問題解決できないときには、学校選択制を部分的に導入する方法なら、ある程度賛同が得られるかもしれない。学校選択ができる地域を指定する方法もある。当然、小中学校の校区のことも関わってくるので、何とか解決策を考えたい。</p>
委員	<p>先般、コミュニティ・スクールの研修会に出た折の話である。文科省のアドバイザー、大分県のＯＢの方であったが、話の中で地域、地域ということ非常に強力に言われた。我々の方から聞いていたら、コミュニティ・スクールの部分ではいいのかもしれないが、逆に小学校の統廃合は本当にできるのかというふう感じた。自分自身は地域の中心が小学校という考えには反対で、やはり子ども達を目線で考えていただきたい。小学校がなくなったら地域がなくなるわけではな</p>

	<p>い。</p> <p>先ほど説明であったが、平成23年から始まった小学校適正配置計画について、なぜそこまで地域、地域とやってきたかという疑問がある。大上段で振りかざしたら反対だらけだろうけど、教育委員会の指導という部分もあっていいのではと思う。なぜ、あの時、統合できなかったのかと不思議ではない。</p>
委員	<p>地域の方の声として「地域が廃れる」というのがあるということはずっと聞いている。しかし、課題として上がっている子どもの数は減っている。目標としては、倉吉市に残る子ども達を育てるために教育があるわけである。地域に縛り付け、何もない状態、何にも挑戦できない状態で育った子ども達が、何かに挑戦できるところに行きたくて、結局県外に出てしまう。結果、地域に残すためにとがらばった活動が何も残らないということにならないのかと気になる。</p> <p>令和7年度まで子ども達の人数の推移が出ている。学校によっては、子どもの人数が減りすぎて、学習発表会、運動会等ができるのかという心配がある。学級単位にすると4、5人となり競うこともない。先ほどの話でもあった、わからないことを聞くこともできない。5人全員がわからないということもあるかもしれない。人数が少ない方がいい場面はもちろんある。子ども達の人数が少ない学習環境で勉強した方が個々のためにはよいということもあると思う。</p> <p>しかし、基本的には、子どもの人数の多い方がいいと思う。少ない人数でちょっとした子ども同士のケンカがあったときに、間違いなく学校にいけなくなる。逃げ場がない。私たち大人が逃げ場をつくってやれたらいいが、今の現状としてあるわけではない。では転校したらすむかといったら、そんなことではない。</p> <p>学校の中である程度的人数が確保されていれば、子ども達の間人関係を考えてクラス分けもできる。同じ学校の中で離れた空間なら大丈夫となれば、対策をとることもできる。子ども達にとっていい環境を大前提に話を進めてほしい。</p>
教育長	<p>湖南学園の初代校長の木下先生に話を聞いた時に、鳥取市は平成に入って周りの町と大合併をした。小学校がなくなってしまった旧町の地域があるが、そこが廃れているかといったら決してそのようなことはない。何らかの工夫をして旧校舎を活用し、地域を活性化するような取組を行っている。木下先生は、子どもの環境と地域の活性化のバランスをどうとるかというところは確かに難しかった言われていた。</p> <p>倉吉市も全く同じである。去年一年間、地域に出て感じたのは、仮に小学校がなくなったときに小学校の建物をどうしようと地域は考えておられるか。それを教育委員会が勝手に小学校をなくしてどう責任をとるのかと言われても、閉校した小学校建築物については、教育委員会に権限がない。教育委員会の立場としては、子ども達の環境を優先して考えたいということをしつづつお話をしている。早く進めてほしいとの意見はありがたいが、ただ、決断というときにどの程度の同意を得た時に進めていいのかは、正直悩むところであり、非常に難しい判断となる。</p>
委員	<p>自分は最初からこの議論に関わっているが、倉吉市の中でも子ども達の教育環境の格差を感じる。教育環境の格差は何かしないといけない。文化やスポーツの場面で、苦勞して遠い学校とチームを組んで保護者は子どもの練習の送迎、試合に行っている。そのため、地域の行事に出られない。今、スポーツ団体もとても忙しい。実際に保護者は地域にどれだけ出てきているのか。出れない状況がある。それと家庭数がどれくらいあるかということもデータとしては非常にほしいところではあるが、子どものいる家庭がどれだけ地域を担っているかといったら、圧倒的に数は少ない。地域を担うのはシニア、高齢者になっている。</p> <p>教育の場面でも地域といわれるのは、おそらく厚労省が地域包括支援体制を構築するということをめざしているから、地域、地域というのだと思う。地域をつくるのは、地域の歴史、学校、教育の場面も含めてやっていくのがよいかもしれ</p>

	<p>ないが、実は子どもや子どものいる家庭に頼っている場合ではない。緊急事態である。</p> <p>現在いる大人が地域づくりや地域の地縁をつないでいく活動をつくりあげることが可能かというところにきている。子どもを頼っている場合ではない。自分たちでこのように町、村を運営していくのだというところに、あなたたち入ってらっしゃいというのがこれからである。今すぐでもそうしないといけない。町内学習会などで話をさせていただくことがあるが、集落の中でこの町、村をどうやって運営していくかということ、主体的に住民同士で考えていかないといけない時代である。</p> <p>困りごとを出し合い解決するために、地域の住民の皆でできることを話し合い町づくりをしていこうというふうにならないといけない。今までは行政も頼れたが、財政難で行財政改革を行っている。解決できる場所は、できる限り地元の住民の力でやっていかないといけないという段階にきている。そこを住民の方に理解していただく必要がある。</p> <p>では、子どもの置かれている教育環境はどうか。ITでも何でも突っ込めという。一人に一台パソコンということもある。しかし、仮想空間ではなく、生の体験を子どもにさせていかないといけない。そういう場を大人として生み出していったやれるのか。ある程度お互いが助け合って、お互い磨き合う、研鑽する、でも支え合うといった関係をどうやってつくっていくのか。大人が姿を見せないといけないのではないか。人頼みではない段階にきているという危機感をもっている。</p> <p>10年かかって、小学校適正配置計画についてまだ議論しているが、市長の英断がないといけないのではないかと思う。校区の問題も最初から言っている。1つの小学校の卒業児童が3つの中学校に分かれると、子ども達にとってどれほどの困難さがあるか。これを解消しましょうとずっと最初から言ってきた。未だにそのままであるが。</p>
委員	<p>先だって、校区の同和教育研究会があった。久しぶりに地元の小学校ではない学校に行った。環境格差という部分と児童の発言力の違いを見せつけられたような気がした。少ないからいいと言う人はたくさんいると思うが、比べてみてほしいと思う。そういった意味で一歩でも二歩でも進めてほしいと思っている。人が入れないぐらいの保護者の数というのは、小学校適正配置対象校の地域、保護者の方にも見ていただきたいという気がした。これが学校でないかと思う。</p>
委員	<p>参観日の時に用があり、行けないことがある。小規模校では、保護者の人数が少ないので誰が行かなかったかが分かる。それで「何で来なかった。」と言われる。子どもの、家庭の数が少ないとそういうことがあるのだと思った。</p>
委員	<p>保護者のボランティアの会が年に2回ぐらいある。誰が来ていないということが分かってしまう。</p>
委員	<p>人数が少ないとつながりが強すぎて保護者もしんどい。保護者にとってもある程度の保護者の人数がいた方がいいのではないか。</p>
委員	<p>統合する前の学校的时候は、運動会や学習発表会はこういうものかと思っていた。統合して新しい学校になり運動会をしたときに、その当時6年生だった統合前の小規模校出身の子どもが「運動会ってこんなにすごいものだったか。」という言葉をつぶやいた。しみじみとひとり言を言っていた。統合した小学校は、今、140人程である。人数的にすごい数ということはないが、統合前の小規模校の30人と統合した後の小学校140人では全然違う。多くの友達と関わる体験、行事をたくさんさせてやりたいと思う。</p>

委員	<p>倉吉はどの学校を見ても児童数が少ない方ではないか。中部にある大規模の小学校は、運動会の際には、校庭をぐるっと3重ぐらいにテントが立てられている。それぐらい子どもがいる。人数によってできることもできないこともある。そこを決めるのが大人でもいいのではないかと思う。子ども達ができることと、できないことの条件を制限してはいけないと思う。将来にいろいろな可能性をつくってやりたい。自分の可能性を追い続けるのは、かなえるのは本人の努力なのだろうが。道がないと自分の可能性を追い続けようとは思わない。子ども達のためのよい教育環境をつくるのが大人の役目ではないかと思う。</p>
委員	<p>いろいろな地域があって、どの地域にも反対される方はいらる。すごく頑張っている保護者や地域の方もいる。どういう状況なのか分かっていない人、自分がどういうふうにしたらいいのか分からない方が多いのではないか。実際、倉吉市内の小学校を統合したが、そのことで地域がどうなったのか、メリットは何だったのかをもう少し発信してもよいのではないか。</p> <p>統合した学校では、どのあたりでゴーサインが出されたのか。</p>
事務局	<p>統合した小規模校の地域の方が、統合の了承をされた。判断されたことのひとつが他町の統合した小学校への視察である。そこの学校の様子を見られて、子ども達の環境を変える必要があると判断された。</p>
委員	<p>やはり自分の問題になってないので、少し身近になるようなことを発信してもいいのではないかと思う。</p>
委員	<p>それぞれ状況は違うので、一概には言えないが、統合した学校では、校舎を使っている地域の方々は、概ね賛成。代表の方も統合しないといけないと思っておられた。最後まで反対されたのは保護者で、少し他の地域とは状況が違う。</p>
委員	<p>実際、保護者を含めて教育を受ける立場の人がどうした方がいいのか。ベストではないかもしれないがベター、どちらがいいのかということ判断する必要がある。過去を振り返ったときに、よかったと言えるようにすべきだと思う。これだけ年数がかかると、当事者意識も違ってくる。だから、卒業したからもういいという人もいるかもしれない。これから入学する児童の数は、ますます少なくなっていくし、どこまで学校の現状を理解されているのかよくわからない。</p> <p>もう一つ思うのは、地域というか地区と小学校区は同一だと皆さんがお考えになっているが、小学校統廃合を判断する権限はどこまであるのか。思いは当然ある。学校がなくなると地域がなくなると言われるが、小学校がなくても地域をつくっていくのは自分たちなのだとするところに、どうして立ち返らないのかなと思う。地域をどうしていくのかを自分のこととして考えなくてはならない時に、小学校がないと地域づくりができないという話が通用するのかと思う。</p>
委員	<p>昨年、他町の小学校が統合された。その学校跡地の検討委員会で意見を出させていただいている。検討委員会の反応を見ていく中で、一つのをまとめてつくるといのは様々な効果があると思うが、絶対に反対を言う人というのはいらる。だからそれを取りまとめられるトップ、代表の方が、しっかりと決断ができるような覚悟で取り組むしかないと思う。これが正しいとはいえない。それぞれその人の立場でものが言えるので、何が正解とはいえないと思う。ただ、実際に反対する人がおられたとしても、その後で、あの時は反対と言っていたけど、今、考えると統合してよかったと思ってもらえるように取り組むのが最初なのではないか。</p>
会長	<p>私も小学校適正配置協議会の意見をまとめた資料を読んだ。長い期間、適正配置について議論をしてきて、果たしてどの程度進んできたのかということ改めて感じた。学校のことだから教育のことを最優先して考えないといけないということは、学校教育審議会の場では話ができている。しかし、地域では、なかなかそういう気持ちになれないということなのだろうと思う。</p> <p>例えば、都会では、幼稚園ができることに騒がしいという理由で反対というこ</p>

	<p>とがある。その一方で、小学校がなくなると地域が寂れる、衰退する。よくよく考えたら、地域あるいは町という言葉を使いながら、個人の不安感が出ているのではないかという気がする。</p> <p>小学校適正配置を進めるにあたっては、教育委員会だけが頑張っただけで案を出したり意見をとりまとめたりするのではなくて、市全体で地域の不安をどう汲み取って、何かできることがありはしないかを考える必要があると感じてきた。「ある、すばらしい先生にめぐり合ったらとてもよいクラスができた。」「小規模であたたかい雰囲気の学校運営なり教育ができた。」というのは、ある面、メルヘンであり、全部がそうではない。だからメルヘンで考えすぎても困るし、かといって経済論理で考えてもいけない。そこは頭を冷やして、様々な配慮をした上で、こういうことが望ましいのではないかという提示をするしかないのでは、と思う。そのときに、小学校はそのまま残すのも選択肢の一つというふうには、しない方がいいと思う。選択肢の一つに小学校の単独存続を入れると、10年やってきた議論もすぐ元に戻ってしまうと思う。</p> <p>学校選択のことであるが、例えばAとBの小学校が一緒になるというときに、どこの小学校に行ってもいいというようなことをすると、自動的に残る学校が決まってくるというような議論もあったが、それは危険だと思う。生徒を実験台にしてしまうことになる。なるべくそうならないようにした方がいいという気持ちを持っている。</p>
教育長	<p>言われたとおりで、学校選択制という動きは、今、日本全体の中では、やめていく方向になっている。近年、学校選択制を取り入れたのは大阪である。大阪は学校を競わせたいという理由で取り入れた。他のところはやってみただけ、うまくいかないということで元の校区制に戻していくという流れになっている。小学校適正配置協議会の中の保護者グループでは、学校選択制を方法としてはとれるが、それをすると成り立たない学校が出てくると言っている。</p>
委員	<p>全部を選択性にするというのは現実的には無理。通学するのにバスを使って学校が始まる時間までにたどり着けるということを考えると中学校区ぐらいになる。</p>
教育長	<p>そのあたり議論を積んでもらって、絞っていってもらった方がいいと思う。学校ごとに複数案を出すというのはそういう意味である。本当にこれでいいのかと。</p>
会長	<p>アメリカがやって、お金がかからないことなので日本も導入しかけたが、やっぱり失敗した。結局それは自己責任という考え方である。悪い選択をしたあなたが悪い。アメリカはそういう国であるが、だからそれを鵜呑みにしない方がいいと思う。</p>
会長	<p>最後にどうしても話しておきたいという方はあるか。</p>
委員	<p>校長先生から学校の先生を見たときに、先生たちのモチベーションを上げるためにどんなことをされているのか。</p>
教育長	<p>経験上、役立ち感とか学校を動かしていくのにこれだけの貢献をしていると認めることかということだと思う。</p>
委員	<p>一緒に飲みに行くことはあるのか。</p>
教育長	<p>もちろんある。私が担任している頃に思っていたのは、子どもの成長である。こんなことができるようになったのかということがかううれしくて、また次にがんばることができる。</p>
委員	<p>積極的な先生が減ったように思う。娘が小学校に入学した時に、ロボットみたいな人が多いと感じた。パターンで動くみたい。やはり子ども達にとっては一人の先生なので、そういう人間味のある対応ができるかどうかというのは、上の人からの愛情ではないかと思う。</p>
委員	<p>校長先生が代わるとガラッと雰囲気が変わる。先生たちの生き生きした感じが全然違う。保護者も先生のいいところを見つけやすくなる。それをポロッと言う</p>

	と、校長先生がうれしそうに「ええこと聞いた。明日ほめてやらんといけん。」というのを聞く。一緒だと感じた。私たち大人ってなかなかほめられることがないので、やっぱりほめてもらうとうれしい。上手にほめることができる管理職がおられる学校はすごく伸びる。先生方にとって働きやすい環境で、そのいい空気が下に下りて子ども達にもいい影響を与えらると思う。
委員	自信がない先生が多いという印象がある。ちょっともったいないというか、ぜひ先生方が元気が出る取組をしていただきたい。
委員	<p>この間、西中校区の校区同研があった。日々感じていることであるが、人権教育って必要なのか、人権教育って何？という世代が増えてきた。学校の先生だけでなく保護者も保育士もそうである。今日、いじめとか不登校とかいろいろ話し合ったが、人権教育で感覚をしっかりと磨いていただければ、たぶん感度のいいアンテナが張れると思う。</p> <p>学校運営も人権教育を生かしていただいているものと思って話を聞いていたが、人権教育でしっかり積み上げてきたという人はそれなりにしっかりしているし、話しやすい。保護者も相談しやすいと経験上感じる。子ども達も見ている、この先生すごく厳しいが信頼できるとか、保護者も子育てで不安を感じているが相談にのってもらえるという安心感がある。高校生になって中学校の先生に相談したり、小学校の先生に相談にのってもらったりということもある。</p> <p>やはりもう一度人権教育の重要さをしっかり押さえていただいて、先生たちの研修を積んでいただきたい。</p>
会長	長時間にわたり、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。以上で第2回の審議会を終了する。
4 閉会	